

会 議 録

会議名	平成30年度 宇都宮市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	平成31年2月21日（木）13：30～14：55
開催場所	宇都宮市役所14大会議室
出席者	<p>【委員】今井政範，金子和義，黒子英明，小平美智雄，村田雅彦，樋口徹，浅海伸子，枝野悦子，大金勇夫，上野すみ子，高橋克彦，津浦幸雄，清本龍司，深澤智之，石川博之，大八木延子 計16名</p> <p>【事務局】環境部長，上下水道局技術担当次長，環境部次長，環境政策課長，環境政策課総務担当主幹，環境保全課長，廃棄物対策課長，ごみ減量課長，廃棄物施設課長，廃棄物処理施設整備室長，農林生産流通課長補佐，下水道管理課長，下水道建設課長，生活排水課長 ごみ減量課課長補佐，ごみ減量課職員8名，廃棄物施設課職員2名，廃棄物処理施設整備室職員1名，生活排水課職員3名</p>
公開・非公開	公開
傍聴者	なし
議題	<p>1 会長選出，職務代理者指名</p> <p>2 一般廃棄物処理基本計画における2018（平成30）年度の実績及び2019（平成31）年度実施計画の策定について</p>
会議結果	<p>1 委員の互選により金子和義委員を会長に選出。金子和義会長が樋口徹委員を職務代理者に指名。</p> <p>2 事務局（案）のとおりとする。</p>

主な質疑応答

一般廃棄物処理基本計画における2018（平成30）年度の実績及び2019（平成31）年度実施計画の策定について

小平美智雄委員	<p>資料2-1について，一人1日当たり家庭系ごみ排出量（資源物以外）は，約550gで推移しており，頭打ちであると感じる。平成31年度も引き続き，大きく方向性は変えずに施策事業に取り組んでいくようだが，このままで目標値は達成できるのか。</p> <p>宇都宮市の周知啓発は3Rとして行っており，発生抑制に関しては弱いように感じる。</p> <p>京都市では，発生抑制のため3切り運動（使い切り，食べ切り，水切り）を市民運動として展開・定着しており，特に使い切りについては，冷蔵庫の中の余っている食材を使ったレシピの紹介などを行っているようである。</p> <p>今後は，発生抑制の周知啓発に力を入れていくべきではないか。</p>
事務局	<p>本市でも，もったいない運動市民会議との連携による「もったいない残しま10！運動」を展開しており，冷蔵庫の中身チェックや，宴会では開始・終了の10分間は食べることに専念するといった取組を周知啓発している。こういった取組については，強化していきたい。</p>

小平美智雄委員	<p>「もったいない残しま10！運動」など本市独自の取組があるが、各取組が単体で周知されているため、市民は意識しづらいのではないかと。市民が理解しやすいよう、例えばキャッチフレーズをつけるなど、PRの仕方については今後も検討してもらいたい。</p>
大金勇夫委員	<p>分別に関する周知啓発について、自身の自治会では、年4回ある班長会議のうち、必ず1回は分別講習会として実施しているところである。家庭菜園や庭から出る雑草は焼却ごみになるが、雑草を乾燥させてから捨てることにより、重量を減らすことができる。ぜひ分別講習会において、ごみを減らす方法の一つとして周知してほしい。</p> <p>また、農業用の事業系ごみのごみステーションに捨てられていることがあるが、自治会から直接事業者へ指導することは、とても難しいことである。収集運搬を行っている事業者が、現場の写真を撮って市に通報するなど、連携体制を取ることで、対策の強化が図れるのではないかと。</p>
事務局	<p>雑草の乾燥・軽量化の周知については、今年度からの周知に取り組んでいきたい。</p> <p>事業系ごみのごみステーションに出された場合は、現在も、収集運搬事業者からの情報に基づき対応しているが、現場を写真で記録して指導につなげるなど、より効果的な対策について検討していきたい。</p>
上野すみ子委員	<p>別紙1(4)の「もったいない生ごみ減量化推進」について、ごみの分別に関するチラシ等はよく見るが、「フードバンク」や「フードドライブ」について具体的に書かれた啓発の資料はあまり見たことがない。ホームページなどで周知は行われていると思うが、高齢の方などは目にする機会が少ないのではないかと。「フードドライブ」で受付可能な食品の基準や実施日など、教えてもらいたい。</p>
事務局	<p>「フードドライブ」については、市ホームページのほか10月の自治会回覧で周知したところであるが、今後は、より広く、わかりやすい周知に努めていきたい。</p> <p>「フードバンク」では、賞味期限が1カ月以上残っているものを受付している。現在、3月に開催される「エコまつり」での「フードドライブ」の事前受付を実施している。</p>
大八木延子委員	<p>別紙1(6)の「リユース品の利用促進」について、貧困家庭に対する支援として、食品ロスを有効活用する取組が進んでいると同時に、リユース品の利用促進の動きがあると聞いている。今年度は、制服や学用品など地域におけるリユースの取組について情報収集したとのことだが、地域で取り組んでいるリユース情報を紹介するなど、取組を推進してもらいたい。</p>
事務局	<p>制服のリユースについては、教育委員会で情報を取りまとめていると聞いている。当審議会で、制服リユースの情報提供に関するご意見をいただいたことについて、教育委員会にも報告する。</p>
今井政範委員	<p>環境教育の点について、小学4年生を中心に環境に関する教育を行っているが、給食については小学生から中学生までが関わるものである。給食を残さず食べることについては、教育委員会等でどのように指導しているのか。</p>
事務局	<p>学校給食の残渣量は、年々減少していると聞いている。</p> <p>なお、環境教育としては、小学4年生を対象に、クリーンパーク茂原の工場見学を実施する中で、給食残渣を含めたごみの処理や減量化について学ぶための機会を設けている。</p>

今井政範委員	<p>「もったいない」の観点からも、食べ物を残さないようにするためには、子どもたちと直接関わる時期である小・中学校のときに教えていくべきであり、そうすることで、家庭でも実践できるのではないかと考える。</p>
浅海伸子委員	<p>富士見が丘地域では、地域の方が散歩などで長岡公園を利用することがあるが、以前は公園周辺の山などに不法投棄が多かった。現在は、監視カメラ設置の効果などにより、不法投棄がなくなったと感じている。また、以前は下水道に接続していない世帯が多かったが、これまでの自治会回覧などによる周知から、一軒ずつ世帯を訪問して周知をしているということは、非常にありがたいと感じる。</p>
村田雅彦委員	<p>資料２－１で説明のあったとおり、家庭系ごみの排出量が、ここ数年全く減っていない状況にあるが、その要因として、参考資料２に施策の一つとして記載されている家庭用生ごみ処理機が普及していないのではないかと。 事業系ごみは、各施策により確実に減量されているので、家庭系ごみについても減量できると思う。生ごみ処理機がごみの減量に有効な手段ならば、今後の普及促進の有り方について検討すべきではないか。また、生ごみ処理機以外にも効果が高い施策についても検討し、家庭系ごみの減量化を図るべきと考える。</p>
事務局	<p>生ごみ処理機は、新規で購入する方やリピーターの方がおり、平成２９年度の補助実績は１４４件である。生ごみ処理機の活用は重要な取組であると認識しているが、まずは資源物の分別に協力していただきたいと考えている。</p>
村田雅彦委員	<p>別紙１の基本施策３－３、取組指標である不法投棄発生件数について、一年間の件数が示されているものと思うが、不法投棄はすべて単年度で解決に至るのか。解決に至らない案件やそのごみ量について、把握しているか。</p>
事務局	<p>年間の不法投棄発生件数のうち、なかなか解決しないケースもあり、そのようなケースについては継続的に対応している。不法投棄されているごみ量については、それが産業廃棄物である場合は、処理等の対応が一般廃棄物と異なるため把握が難しいが、対応が必要な案件については個別に状況を把握し、継続的な指導を行っている。</p>
樋口徹委員	<p>資料２－１について、高い目標を掲げて取り組んでいる中、取組の方向性として「効果的・効率的」という表現が頻繁に出てくるが、効果と効率は相反するものでもあると思うが、どのような意味で使っているのか。</p>
事務局	<p>財政的な制限のある中で、最大の効果を上げていくという意味で使っている。</p>
津浦幸雄委員	<p>資料２－２について、生活排水処理率は、９５．３％と増加傾向にあるが、２０２０年度の短期目標値も９５．３％となっており、今後の人口流出なども踏まえた目標としているのか。</p>
事務局	<p>接続可能な人口は限定されており、人口の割合から目標値を設定しているため、人口が減少しても、割合が減少することはない。 短期目標は達成しているが、接続率１００％達成に向けて、引き続き取り組んでいく。</p>